

早稲田大学審査学位論文

博士（人間科学）

概要書

近代ギリシャのオリンピア競技祭の展開と変容
に関する研究

Development and Transformation of the
Olympia Games in Modern Greece

2010 年 7 月

早稲田大学大学院 人間科学研究科

真田 久

Sanada, Hisashi

本研究は、近代ギリシャのオリンピック競技祭の文化要素（理念、運営組織、競技規則などの諸規定、出場者）が、どのように変容したかをみることで、当オリンピック競技祭の特徴を明らかにした。

1830年代の初めに独立したギリシャでは、P. Soutsos (1806-1868年)の提案とE. Zappas (1800-1865年)による財産供与により、1859年にアテネで最初のオリンピック競技祭が開催された。その後1870年、1875年にも復元された古代のパナテナイ競技場で、さらに1888年と1889年には、ザッピオン展示会場と体育クラブの運動場で開催された。

先行研究の検討から、本研究の課題は次の点であった。

- ・ギリシャ独自のオリンピック競技祭に関するオリンピック委員会の史料などにより、その展開と特徴を明らかにする。
- ・運動競技のみならず、産業製品競技と産業博覧会、芸術競技などの相互の関係を明らかにする。
- ・オリンピック競技祭の文化要素（理念、組織、規定、競技内容、出場者）の変容という視点から特徴を明らかにする。
- ・古代オリンピック競技祭を終焉に導いたキリスト教と近代におけるオリンピック競技祭の復興という歴史上の矛盾をどのように相克したのか考察する。
- ・ギリシャのオリンピック競技祭と、第一回近代国際オリンピック競技会との関連を明らかにする。

ギリシャ独自のオリンピック競技祭は、トルコやエジプトなど国外に住むギリシャ人も参加したので、その意味では、全ギリシャ的な祭典であり、古代オリンピック競技祭の復興という一面を有していたと言えよう。

一方、理念や競技種目、競技規則などは変容した。産業振興をめざしてはじめられたオリンピック競技祭が、芸術や文化の発展と教育的意味もあわせもった競技祭へと移行したのであった。

第一回オリンピック競技祭が古代の祭典と違う点は、産業の振興という近代国家の理念に基づいたオリンピック競技祭となったことであった。産業博覧会を行うことで、産業製品を競技の範疇に組み入れた。古代が戦争終結による平和の証としてゼウスに捧げるという理念であったのに対し、近代は国家の発展のための産業振興を掲げて、産業博覧会と運動競技から始められた。

1870年には、競技祭の目的が産業振興のみならず、「身体的な活力」と「ミューズの崇拜」が主張され、身体的な競技と知性のトレーニング、それらと産業との統合による社会の発展がオリンピック競技祭の理念となった。

それに基づき、第二回、第三回オリンピック競技祭においては、芸術競技（建築、絵画と彫刻）が産業製品競技の一部門として実施された。音楽競技や詩歌競技も実施され、産業製品の競技から芸術競技が徐々に形成され発展したと言える。

第二回オリンピック競技祭の産業製品競技では、「市民の道徳的、身体的改善」の категорияが設けられ、第三回競技祭では、市民の身体的教育、各学校における健康面の計画、体育に関する製品など、体育や健康に関する産業製品が拡大した。さらに第四回競技祭では、体育クラブの計画、体操の方法などが産業製品競技の中に加えられた。教育現場での体育や健康に関する産業製品が充実していったと言える。

運動競技の競技者は、1870年の競技祭までは参加資格の制限はなかったが、1875年には、学生や軍人などに制限された。古代にならない、トレーニングを積んだ者が望ましい、との教育的な考えによるものであった。このため、アテネ市内のみならず、地方でも複数の体育クラブが創られた。結果として、青少年たちが体育を習う機会が増え、体育クラブ出身者がギリシャの体育の発展に寄与することになった。

芸術競技は1896年開催の近代国際オリンピック競技会にも引き継がれ、音楽競技も計画されていた。また、たいまつ行列や古代劇の上演など、古代文化を継承した文化的なプログラムも開催された。これらはギリシャのオリンピック競技祭の遺産と言える。近代国際オリンピック競技会も、やがて芸術競技や文化プログラムが行われるなど、同じ経過をたどった。

オリンピック競技祭を復興する際に、古代の宗教的な観念をどのように解釈したのかは重要である。古代オリンピック競技祭が終焉したのは、キリスト教による異教の祭典禁止令によるものであったからである。

この点については、産業という近代性を強調することで、古代とは社会の枠組みが違うという説明をつけたと考えられる。さらに、当時のアマチュアリズムの考えを強調することで、古代の競技祭は、職業化の弊害で墮落し、消滅したという見解を、援用して自らを納得させたものと思われる。

ギリシャのオリンピック競技祭は、産業振興という経済的な発展をめざしてのオリンピック競技祭から、文化・芸術、さらには教育的な面での発展を視野に入れたオリンピック競技祭へと変容して展開され、その意味で近代国際オリンピック競技会の下地にもなったと言える。